

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、試料・情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

研究計画書番号	RP-S2-23	研究期間	2023年11月27日～ 2027年3月31日
研究課題名	放射線とがんの疫学研究に関する UNSCEAR 報告書のためのがんリスク予測		
研究責任者（所属）	古川恭治（久留米大学バイオ統計センター）		
放影研での研究責任者	ブレナー・アリーナ		
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的： 放射線とがんの疫学研究に関する新しい UNSCEAR（国連科学委員会）報告書の一部として、このプロジェクトの目的は、発表された LSS（寿命調査）論文から得られたリスク推定値を用いて、世界中の参照集団（世界保健機関（WHO）により定義された地理的地域群に基づく）に対する LSS のデータに基づくがん発生リスクを予測することである。放影研の貢献により、新しい UNSCEAR 報告書は、ヒトの電離放射線被曝後のがんリスクに関する重要な最新参考資料となる。 利用方法： 放影研の責任研究者（ブレナー・アリーナ）は、仮名加工された個人レベルのデータを用いて、公表されているがん罹患率調査から線量反応解析を再現する。この要約統計は古川恭治（久留米大学）と共有され、古川は LSS から得られたリスク係数を世界中の参照集団に適用し、放射線によるがん特異的累積過剰リスクを推定する。仮名加工された個人レベルまたは集団レベルのデータではなく、要約統計のみが古川と共有される。		
他の機関への提供の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 提供先機関名：久留米大学バイオ統計センター <input type="checkbox"/> 無		
利用し、又は提供する試料・情報の項目 （提供する試料・情報の取得の方法）	使用する情報：被爆都市、性別、生年月日、爆心地からの距離（近位/遠位を含む）； 法務省の承認後、戸籍から入手した最終接触日（死亡した場合は死亡月と死亡年）、LSS 調査開始日 追跡状況； ABCC が実施した個人面接に基づき、放影研線量推定システムにより推定		

	<p>された放射線量（個人を特定できないように3桁に切り捨て）；</p> <p>アンケートにより得られた生活習慣に関する情報：初潮・閉経年齢、閉経の種類（自然閉経か人工閉経か）、月経周期、妊娠・出産年齢、中絶回数、喫煙（年齢、生活習慣情報を入手した時期、初回・最終回アンケートの年齢を含む）；</p> <p>RP18-61 および RP29-60 に基づいて、がん登録、腫瘍・組織登録より情報を入手した。広島県・長崎県の人口に基づくがん登録（広島県・市および長崎県が運営）、腫瘍・組織登録（広島県・長崎県の医師会が運営）（肺がん症例については部位、形態、状態などを含む）より入手済みのがん診断情報、肺がん症例は部位、形態、診断年月、診断時年齢、診断名コード、診断方法、病期、動機、死亡診断書のみの症例の指標、診断時の居住地（市内、市外、県外）。</p> <p>ABCC 剖検プログラムを通じて得られた、剖検時に診断されたがんの指標。放影研要覧 (https://www.rerf.or.jp/uploads/2017/07/briefdescript_j.pdf) に保存されている情報の収集方法の詳細はこちらをご覧ください。</p> <p>古川博士と共有・使用：放射線モデルからのパラメータ推定値および分散共分散行列</p>
利用する者の範囲	放射線影響研究所 ブレナー・アリーナ 杉山裕美 久留米大学バイオ統計センター 古川恭治
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	古川恭治（久留米大学バイオ統計センター）
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：ブレナー・アリーナ 公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部 住所：広島市南区比治山公園5番2号 TEL：082-261-3131